

フリーアナウンサー

古賀 あや さん

こが あや

●07年3月摂南大国際言語文化学部国際言語文化学科卒。ヒルトンホテル大阪を経て、セイ(プロダクション)所属のフリーアナウンサーに。11年5月から日本道路交通情報センターの大阪センターで交通情報を担当。福岡県出身。29歳。



ラジオ放送の交通情報をアナウンス 「聴き手に分かりやすく情報発信したい」

落ち着いた声がある柔らかな声は生来の魅力です。日本道路交通情報センターに勤務する古賀あやさんは、ラジオ放送を通じて渋滞や事故などの情報を送るフリーアナウンサー。摂南大卒業後はホテル業に就きましたが、養成校に通いながら夢を実現。2011年から現職に。「短い言葉で瞬時に理解できる伝え方」を念頭にマイクに向かっていきます。

子どものころから「いい声をしているね」と言われることが多かったという古賀さん。テレビやラジオが大好きだったこともあり、「しゃべることを職業にできればいいな」と考えるようになったそうです。

在学中は放送部に所属し、校内放送や学内イベントの司会などの活動を行っていました。しかし、それだけではもの足りず、日ごろから仲良くなった職員に、「イベントをお手伝いできる機会があったら声を掛けてください」とアピールしたといいます。その甲斐もあり、卒業式の司会や、オリンピック選手を招いた際の対談相手など、さまざまな場面で活躍。もっとも印象に残るのは、交野市で行われている「Be〜んず」への参加です。若いミュージシャンが出演するステージで、放送部で音響協力したことがきっかけで、古賀さんは進行役の手伝いをするようになりました。タイムスケジュールをもらって、もう1人のMCと掛け合いながらアドリブで進行するという、これまでにない体験でした。「ホールで司会をする機会はあ

まりなかったので、緊張したけれどすごく楽しかった。ますますこういう活動をしてみたいと思うようになりました」

卒業後はホテルに就職。ルームサービス職に従事しながらアナウンススクールに通っていたところ、日本道路交通情報センターの求人情報を知り、面接へ。現在は契約職員として勤務し、在阪ラジオ局が流す交通情報のアナウンスを担当しています。

「私の役割は制限時間の中で事故や渋滞の情報をドライバーに分かりやすく説明すること。高速道路などでの事故や渋滞の場所、距離などの素材はオンラインで得て、自分なりにかみくだいてアナウンスするんです。60秒間で伝えるため、いま必要な情報を適切に取捨選択しなくてははいけません」。伝え方は担当者の腕次第。生放送とあって臨機応変さが求められる業務です。渋滞が距離だけではイメージしにくいなら、所要時間も付け加えるといった具合に、ドライバーの立場で分かりやすいアナウンスを心掛けています。今では「この言葉を使ったら何秒かかる」というところまで計算できるそうです。

迷わず転職を決意したのは、「チャレンジをためらって後悔したくはないから。やりたいと思ったことはすべてやってしまうタイプです」。学生時代もフィールドワークに積極的な浅野ゼミに所属し、アクティブさを発揮。地域の小学校と交流し、授業や臨海学校のサポート、学童保育の手伝いなどを行っていました。「ももとは引込み思案な性格なんです。でも、大学で環境が変わり、人と接することが楽しくなりました。浅野ゼミはパワフルで目標のある学生が多く、いい影響を受けたと思います」

今後はアドリブでも話せる能力を高めて、ラジオ以外にも活躍の場を広げたいと意欲を語ります。「この人の声をもっと聴きたい」と思ってもらえるような話し手が理想。新しい分野に挑戦することで、自分の知らなかった面に気付くこともあるといいます。「夢や目標がある人は、それを口外することで実現に近づくのではないのでしょうか。摂南大には学生と教職員がフランクに話せる環境があります。私自身、在学中に夢を話していたことで思いがつながり、チャンスをつかめたと思います。皆さんもご自身の思いを大切に、やりたいことに挑戦してみませんか」

